



雪化粧



ソリにて搬送



ジープ大活躍

秩父病院だより

- 豪雪を振り返って -

院長 花輪峰夫



2月14日（金曜日）より降り続いた雪は経験したことのない大雪となった。翌15日には1mを超える積雪となっていた。私は、学生時代は山岳・スキー部に所属していたので、雪は大好きである。朝、勇んでジープで病院に出かけた。道路もほとんど新雪状態で、走っていたのは私の車のみであった。それからの悪戦苦闘の出来事を書き留めておきたい。

患者さんが来院できる状態ではなく、外来には一人もいなかった。夜勤明けのスタッフが引き続き業務をこなしていたが、一人二人と職員が集まってきた。驚いたことに、太田、長瀬、横瀬方面より最長で6時間かけて腰まである雪の

中を歩いてきたスタッフもいた。医者達の多くも徒歩で集まってきた。調理師さんも少ない人数で患者と職員の食事を普段通りに食べさせてくれた。感激である。私は良いスタッフを持ったものだと思えるほど嬉しかった。

出勤した職員の多くは、病院に泊まった。

16日（日曜）は二次救急当番であった。総出の雪掻きが始まった。救急車受け入れ要請が数件。この内1台のみが当院まで到着。その他は、2キロ手前よりソリ搬送で1時間以上かけて来院。外来患者少数。防災航空隊より、ヘリの受け入れ要請あり。出来れば18メートル四方の除雪をしてほしいとのこと。病棟看護師を除く総勢で懸命に雪掻き、作業完遂。ところが、ヘリは来ないとのこと。加えて、どこかの空き地を除雪してヘリポートを確保するので用済みとのこと。いっぺんに疲れが出て多少腹が立った。病院併設のヘリポートと単なるヘリポートでは全く機能が違うことが分からないらしい。

17日（月）ジープと4輪駆動ワゴン車で職員の送り迎え。食糧の調達。通常通り手術を行う。職員の一人と連絡が取れないとのこと。自宅は孤立集落となり、停電している。町役場に連絡、安否確認依頼する。以後は職員達も家族の協力での出勤し、概ね平常に復帰した。この雪騒動中、外科の女性医師は6連続夜勤当直、警備員も交代できず5連続夜勤で体調を崩した。

3年前の東日本大震災の時を思い出した。このときは開院3日目であったが停電や混乱をどうにか乗り切った。今回も同様に大事に至らなかったのは、職員達の頑張りのお陰であった。救急病院はどんな時でも常通りの機能を求められる。可能な限りこれを維持するためには、スタッフの使命感、責任感、人間力であることを痛感した1週間であった。また行政などに頼らず自力で頑張る以外ないことも痛感した。1週間後、除雪車を購入した。

埼玉県外科医会学術講演会 が開催されました

平成26年3月8日、秩父外科医会が企画運営し『地域医療における外科医と総合医』というメインテーマで講演会が開催されました。内外より100名を越す多くの先生方が参加され、講演会後の懇親会も極上ワインに酔いしれ、大変な盛り上がりでありました。

その内容を簡単にご紹介します。

1. 基調講演

前慶応義塾大学病院長 相川直樹先生

『地域医療における外科医と総合医』

相川先生は日本の救急医療、感染症、ショック等の第1人者です。また、アメリカ、カナダの日本大使館のメディカルアドバイザーや医師国家試験や医道審議会の委員長等、国の医療行政にも深く関与している先生です。広い見識から、近年大きく変貌した外科全般の状況を明確に指摘し、地域医療における今後の外科診療について大きな示唆をいただきました。

2. 教育講演

日本医科大学付属病院 総合診療科教授 安武正弘先生

『日本医科大学における総合診療科の役割』

安武先生は同大学の総合診療科最初の大学院教授で、専門は循環器疾患ですが、大学病院における総合医の役割について、総合医育成を含め、専門医の視点からのご講演を頂きました。

3. 特別発言

秩父外科医会員 南須原医院 南須原宏樹先生

『在宅での麻酔的緩和医療』

在宅医療の現場のご講演を頂きました。先生は麻酔科専門であり、在宅における緩和医療等のご講演を頂きました。

4. 特別講演

元内閣府 厚生労働事務次官、前人事院総裁 江利川毅先生

『霞ヶ関（政と官）のよもやま話』

江利川氏は国の重要ポストを三度務め、国の行政に広く関わっている方です。今回、氏の多くの知見の中から、貴重な内容のご講演を頂きました。

5. 総括発言

埼玉医科大学名誉教授 尾本良三先生

尾本先生は心臓外科医として有名な方ですが、総合外科医の元祖とも言えるスーパードクターであります。先生よりは、「素晴らしい講演会であった」とのお褒めの言葉を頂きました。

懇親会

本強矢先生のご協力により、高級フランスワインをご準備頂き、『秩父ワイン会』が行われました。秩父屋台囃子の演奏とワインが場を和ませ、あちこちで笑いと楽しそうな会話が生まれていました。多くの方が本当の懇親が出来たのではと、企画運営した我々も満足しています。





第114回 日本外科学会定期学術集会

外科学の最前線 —地域医療と高度医療の連携—

会期 2014年4月3日(木)～5日(土) 会場 国立京都国際会館/グランドプリンスホテル京都

上本 伸二 京都大学医学研究科外科学講座肝胆脾・移植外科学分野
下中 伸二 京都府志賀区志賀町志賀町立柳井田診療・検視科志賀町

大野哲郎先生

が2014年4月3日京都で開催された上記学会に

『地域外科医療を支えるための当院の取り組み』

という演題で発表しました。内容は医師の確保が根本で、そのための方策として、若い医師にとって魅力ある病院となることが重要であり、当院が行っている様々な取り組みを紹介しました。また、目標は当院のポリシーである『地域医療に役に立つ医師の養成』であることをアピールしました。聴講された先生方よりの質問も多く、有意義な議論が行われました。(講演内容の詳細は院長ブログに掲載しております。)

<http://>

www.chichibu-med.jp/director/index.html/



地域外科医療を支えるための当院の取り組み

Surgical educational system in community health.

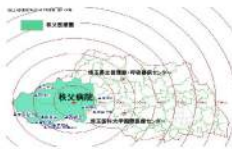
医療法人花仁会 秩父病院外科
大野哲郎 守麻理子 山田正己 花輪峰夫

1. はじめに

近年、一般外科医の減少が指摘され、特に地域医療においてはその崩壊が叫ばれる厳しい状況である。われわれの地域においても、従来、大学病院からの医師派遣によって常勤医師数を確保してきたが、近年では大学医局への入局者の減少もあり、常勤医師派遣の継続を期待できない状況である。

一方で、地方においても中央と遜色のない最先端の医療レベルを確保し、維持することができれば、派遣という形にこだわらなくても医師が集まる可能性がある。学生や若手医師の視線で魅力的な地域外科医療を目指す当院の取り組みについて紹介する。

2. 秩父医療圏



秩父都市は埼玉県西部に位置し、人口約11万人の秩父医療圏を形成する。当地域の医療について考えると、大学病院のような全ての専門科がそろった総合病院はないが、地理的にも、生活・文化圏的にも、可能な限り自院、あるいは地域内で対応する必要がある。

高齢化は深刻であり、総合的診療能力及び包括ケアのマネジメント能力を持った臨床医の必要性が迫られている。このことは同時に、当地域の医療環境がこのような臨床医の育成に適しているとも言える。

4. 若い医師に選ばれる病院となるために

初期研修医が今後の研修病院を選ぶポイント(当院アンケート)	
良い指導医がいること	100%
各種学会専門医の受験資格が取得できること	85.7%
医療の進歩に遅れないこと	71.4%
経験できる症例数が多いこと	49.0%

医師確保のための取り組み

- ①各種専門医取得を視野に入れた後期研修プログラムの作成
 - 1) 外科 2) 消化器内科
 - 3) プライマリ・ケア連合学会認定家庭医後期研修プログラム(Ver.2.0)
- ②先進医療への取り組み
 - 腹腔鏡手術、内視鏡手術の実践 高解像度CTの導入等
- ③初期研修医の積極的受け入れと指導(地域研修)
 - 埼玉医科大学、日本医科大学系列7病院の研修協力施設
 - 研修医の積極的な学会発表の実践・指導(平成25年初期研修医:学会発表5回、論文2編)



- ①大学病院よりの若手医師の派遣要請と派遣医師への指導
 - アップ、ヘモ、ヘルニアをはじめとする一般外科手術等の指導
 - 学会発表、論文発表の指導
- ①子育て中の女性医師、ブランクのある医師への支援、雇用
- ①専門医、指導医の招聘、雇用
- ①地元出身医師の積極的招聘、雇用
- ①広報活動
 - 広報誌(秩父病院だより)、ホームページ作成、レジナビへの参加

5. 結語

人を癒すという意味において、地域医療が大学病院等の高度医療に必ずしも劣っているとは言えない。若い医師が成熟していく上で、地域医療の現場でこそ磨ける分野は広く、地域医療と高度医療の現場がお互いを補填し合うべきものとわれわれは考えている。地域の特性を生かし、「地域に役立つ良医」の育成を目指して今後も様々な取り組みを行っていきたい。

3. 秩父病院

病床数:52床(全床一般病床)

術式別手術件数(平成25年)			
虫垂炎	41	後腹膜腫瘍	1
ヘルニア	77	乳腺疾患	1
胃疾患	4	表皮疾患	1
胃癌	16	術後創感染	2
腸穿孔/腸疾患	24	整形外科手術	70
大腸癌	41	形成外科手術	159
肛門疾患	13	脳外科手術	3
腸閉塞	6	婦人科手術	2
胆道系(良性)	58	末梢血管	1
肝胆腫瘍	4	その他	4
		計	528

医療レベル確保のための取り組み

- ① 大学との人事交流
 - 大学専門医による専門外来の開設:腫瘍内科、乳腺外科、形成外科等
 - 大学指導医による当院への出張指導



- ② 開放病床とオープンシステムの実践
 - 地域診療所の整形外科、脳外科等の専門医による手術

- ③ 医療の進歩に遅れないための技術、手術の導入



- ① 常勤医師のレベルアップ
 - 専門医取得、学会活動等

- ② 個々の医師の守備範囲の拡大
 - 一般外科あるいは総合外科医としての研鑽
- ③ 地域診療所専門医による各種専門外来診療
 - ① 地域症例検討会、全国学会への積極的参加、論文発表

- ① 地域他病院外科医師への手術指導
 - 院内および出張指導
- ② 学会認定研修施設の取得
 - ・日本外科学会 ・日本消化器外科学会 ・日本消化器内視鏡学会
 - ・日本消化管学会 ・日本プライマリ・ケア連合学会

日本外科学会利益相反の開示

筆頭発表者名:大野 哲郎
演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

～当院からのお知らせ～

常勤医師が
増えました

外科医 4人
内科医 4人
歯科医師 3人

とても充実した体制
となりました

女性医師による
外来も増えました

同じ女性だからこそ理解できる悩みは沢山あります。どこに相談すれば良いのかわからない、男性医師には相談しにくいなど、女性医師が相談をお受けいたします。専門医の診察が必要な場合は、担当診療科や他の医療機関へご紹介いたします。

大腸がん検診・検査で
CTによる検査が選択可能になりました

～選択可能な検査～

内視鏡
注腸撮影
大腸CT (CTC)

高性能CTの導入により、
従来の肛門よりバリウムを注入して
X線撮影する注腸撮影に代わる
苦痛の少ない検査です

詳しくは医師までお尋ねください

新入医師の紹介



一般・消化器内科
福田千衣里 先生
埼玉医科大学卒



一般内科・総合診療科
福田千晶 先生
自治医科大学卒



一般歯科
原島厚 先生
明海大学歯学部卒

外来担当表		月	火	水	木	金	土
外科	午前	花輪	大野	山田	守	花輪/田口	大野
	午後	山田	山田	守	片田	田口	金子
総合内科	午前	坂井 近山	坂井	坂井 (第2・4) 福田千晶	近山	福田千衣里 近山	福田千晶
	午後	福田千衣里	福田千晶	近山	坂井 (第2・4) 近山 (第1・3・5)	福田千衣里 福田千晶	坂井
専門外来	午前	大久保 (神経内)	佐藤 (循環器内) 畷川 (腫瘍内)	本間 (第1・3・5) (膠原病)	船生 (肝内) 新井 (乳腺) 水野 (第2) 糖尿病 鈴木 (形成)		秋田 (第2) (整形外科)
	午後	大久保 (神経内)	佐藤 (循環器内) 畷川 (腫瘍内・呼吸器内)	本間 (膠原病)	水野 (第2) 糖尿病 鈴木 (形成)		秋田 (第2) (整形外科)
歯科	午前	長谷川義朗 原島	長谷川義朗 原島	長谷川義朗 原島	長谷川小百合 富松	長谷川義朗 原島	(第2・4) 長谷川義朗 原島
	午後	富松					

医療法人花仁会 秩父病院

〒369-1874 埼玉県秩父市和泉町20番
TEL: 0494-22-3022 (代表)
FAX: 0494-24-9633
Eメール: info@chichibu-med.jp

診療科目: 外科・内科・消化器外科
消化器内科・肛門外科・循環器内科
肝臓内科・放射線科・整形外科
麻酔科・腫瘍内科・形成外科・歯科
人間ドック・一般健診 (随時受け付け)
(健診センターTEL: 0494-22-3023)

受付時間: 午前 8:30~11:30
午後 12:30~17:30
診療時間: 午前 9:00~12:00
午後 15:00~18:00
休診日: 日曜・祝祭日